まいづる
農業委員会だより
No. 75
令和6年10月
発行／舞鶴市農業委員会　舞鶴市字北吸1044　TEL 66-1023　FAX 62-9891

R6年度農業者年金加入推進特別研修会
地域計画に係る新規参入促進研修会の様子

「地域計画」策定に向け、市内の各地域や集落で話し合いが進行しています。今後、その地域の農業を誰が担うのか。ほ場毎に計画を立て、地図に表す取り組みです。

2025年３月までに全国の地域で計画を策定するよう制度化され、今後は行政の支援や補助事業の採択要件になると言われています。市内でも計画書が順次提出されています。

現在の農地を誰が耕作、管理しているのかを地図に落としてみると、そこから将来の課題も見えてきます。

まずは市農林課に相談し、話し合いの場を設けましょう。

（坂本委員）

主な内容

○地域計画の進捗 …… 2
○元気な農業者 …… 3
○故郷のため、新たな挑戦 …… 4・5
○そばの魅力 …… 6
○スマート農業 舞鶴 …… 7
○農業大学校学生募集等 …… 8

地域計画の進捗

地域農業の未来に向けた次なる一歩

令和５年秋に同制度に関する説明会を開催して以降、各地域では活発な意見交換が行われています。

地域計画の策定状況

市と農業委員会が連携し、地域の農地をどのように守り営農を継続していくのかを示す地域計画の策定を進めており、令和５年秋から各地域での説明会を行い、制度の周知と策定に向けたサポートをさせていただいております。

令和６年９月末現在、市内では44地域から策定を目指すご意向をお聞きしており、現在、目標地図の作成を進めている地域が26地域、目標地図が完成した地域が18地域、となっております。地域内での話し合いへの出席や相談をお聞きする中で、高齢化が進む中、「地域の農地をどのように維持していくか」「担い手となる生産者（就農者や農業法人等）についてどのように関わってもらうか」等の意見が交わされております。また、京力農場プランと地域計画との違いや計画策定の具体的な進め方に対する疑問等の声もあり、こうした課題を共に考え、地域計画への理解と策定に向けた支援を進めているところです。

今後、完成した目標地図を集約し、市や京都府、農業協同組合などの関係者間での協議を行い、令和７年３月の計画策定を目指します。計画策定以降に追加や変更等がある場合については、各地域の計画が策定でき次第、追加・変更を行っていくこととなります。

目標地図の作成を

市では、市内を「若浦」「白糸・青葉」「和田・城北」「城北・城南」「岡田」「八雲・神崎」の６つの地域に分けて集約し、令和７年３月の計画策定を目指しています。計画策定に向けて、守るべき農地の範囲と農地一筆ごとに将来の耕作者を示した目標地図の作成を各地域にお願いしているところであり、既に作成済みの地域、現在作成中の地域、検討中の地域など様々です。今後、地域での営農を継続していくために、新たな担い手の受入や農地の借り受けがしやすい環境づくりなど、それぞれの地域にあった計画が必要となってきます。

地域計画の策定は、地域全体で将来を見据えた持続可能な農業を実現するための重要な一歩となります。農業委員会は引き続き地域の声に耳を傾け、必要なサポートを行い、地域農業の未来を築いていきたいと考えています。検討中の地域におかれましては、策定に向けて、制度概要や目標地図の作成方法などご不明なことがありましたら、ぜひお気軽にご相談ください。

尾﨑（上福井）秀行さん 史枝さん ご夫妻

非常に暑い日が続く7月の終わりに、舞鶴市浄水場のある上福井地区にお住まいの尾﨑さんご夫婦を尋ねました。

平成18年にお義父さんより農業を引き継がれ兼業農家になられました。

秀行さんは農業の経験がありませんでしたので、農協や近所の農家さんから農作物の栽培方法や技術を習得されました。

平成19年からはハウス３棟を建て、舞鶴市の特産品である万願寺甘とうの栽培を始められました。

万願寺甘とうは収穫や選別に時間が掛かり苦労されることも多いとのことですが、消費者や知人に喜んで食べてもらった時が一番嬉しく、やりがいがあるとのことです。

現在は、専業農家で水稲30アールとハウス２棟で万願寺甘とう、ハウス１棟でトマトを、畑作５アールでナス、オクラ、キュウリ、里芋、枝豆等を栽培されておられます。

当地区でも農業の担い手の高齢化と人手不足で離農する世帯が増加しており、少しでも農地を守るために、農地を借り受けて水稲を耕作されています。

ご夫婦に趣味をお聞きしますと、秀行さんはメダカを飼育されているそうで、ご自宅の庭の50個程の水槽に３種類のメダカを楽しんで育てておられます。

史枝さんは野菜の栽培に力を入れ、自家用に消費するだけではなく、彩菜館に出荷されています。

健康管理で気を付けているところをお聞きすると、気になるところは放っておかず、早期受診に努めておられるそうです。

これからも、地域や消費者の為にも、益々健康で夫婦力を合わせて農業を継続していただきたいと思います。（土井委員）

故郷のため、新たな挑戦

Blueberry valley Maizuru

ブルーベリーバレーまいづる

児玉　亘（とおる）さん

大浦地域の室牛地区で始まった観光農園「ブルーベリーバレーまいづる」について紹介させていただきます。

舞鶴市職員として30年以上勤めておられた児玉さんは、市内の農村集落が抱える、過疎化、高齢化を間近で見て、自身の集落の未来を危ぶんでおられました。

もともと、「集落のために何かできる事はないか。」と考えておられ、農地を活かし、故郷に活気を取り戻し、子どもたちに夢のある地域を残したいとの思いから、長年勤められた市役所を51歳で早期退職する決心をされました。

かねてから農村地域の活性化には、観光かける農業の観光農園に焦点を当てていた児玉さん。そこで選んだのがブルーベリー。その魅力を聞くと「小粒で酸っぱいイメージとは異なり、摘みたての大粒で甘いブルーベリーを何種類も食べ比べができるのは、ブルーベリー観光農園でしかなく、この体験は、ブルーベリーの概念が変わり感動さえ与えてしまう」のだそうです。健康食品として注目されている一方、いちご狩りなどに比べて認知度が低いことなどからも、ブルーベリー観光農園の可能性に着目されました。

養液栽培の様子

退職する数年前から各地のブルーベリー園に足を運ぶと共に、先進地での研修を1年以上受けて事業計画を立て、今年の6月に、ハーブ園やカフェも併設した観光農園をオープンされました。

農園は、自宅前の田（24アール）を活用し、全面に防草シートを敷いた上に、40種類６００本のブルーベリーの木をポットで育てる養液栽培を導入されています。これ

は、電子制御により液肥を自動供給するシステムで、潅水作業の効率化はもとより、ブルーベリーが好む土壌を確実に形成することで、よく生育し、より美味しくなるそうです。

営業中は、児玉さんがお客様１組ずつをご案内し、ブルーベリー狩りを楽しんでもらったそうですが、「ブルーベリーに多くの種類があり、しかもこんなに甘かったんだ」と大変喜んでいただいたとのこと。

カフェではブルーベリーとハーブを多様な形で味わってもらおうと、ピザやソーダなどの独自のメニューを提供。芝生のエントランスには景観を活かしてベンチやプランターを設置し、ここだけの自然に包まれた癒しの空間を提供されています。

今年はプレオープンの位置づけで、８月中旬までの土日のみの営業でしたが、全日予約は満席となるなど反響は予想以上に大きかったそうです。

また、市職員の経験を生かして行政書士の資格を取得し、地域で開業を目指す方への法手続きなどの支援も行っておられます。

将来的には年間４千人の集客を目指し、知名度や魅力を高めながら、室牛をはじめ周辺地域における様々な形態の農業の担い手確保や、多種多様な地域参画、素敵な田舎暮らしに繋がる取組を進め、子供達の未来へつなぐ持続可能な地域づくりを目標とされています。

活気のある取り組みが広がっていくことを期待しながら、地域の一人として協力し、見守っていきたいと思います。（佐藤委員）

そばの魅力

「そば」づくりは種まきに始まり、刈り取り、乾燥、脱粒から製粉、最後は打ちたてを味わいます。市の加佐地域活性化センターでは、地域の農家が先生になり、７年前からこの体験が出来るそば教室を開催しています。市内在住の家族連れなどから応募があり、今年も８組が活動を開始しています。

７月28日、水間のほ場に22人が集合し、種まきを行いました。真夏の厳しい暑さに負けず、皆で楽しく作業しました。８月下旬の土寄せ作業を終えると、９月上旬には開花期を迎えました。澄んだ秋空の下、白いそばの花が一面に咲き、美しい田園風景にしばし見とれました。

指導役の農家も「夏の干ばつや大雨による根傷みなど順調に生育するか心配したが、ここまでは上出来」とホッとされていました。10月下旬に手で刈り取り、乾燥します。12月には、自分達で挽いた粉でそば打ち体験をし、打ちたてそばをみんなで賞味します。上手に打てなくても半年間頑張ったからこそ、その味は格別です。

そばの特質として、生育が早いことや※アレロパシー活性により他の草の生育を抑える効果もあり、農地管理の面からもメリットがあります。しかし湿害には弱く、水はけの良いほ場が栽培には適しています。

市内ではそばの生産者はあまり多くありませんが、数戸の農家が毎年こだわりを持って栽培しています。地域や仲間でそば打ちを行い交流している所や大規模に栽培し乾麺製品として販売している所もあります。そばは人と人を結ぶ魅力ある作物です。

（坂本委員）

※アレロパシー活性…植物が分泌する化学物質によって、ほかの植物や虫に作用を与える効果。

スマート農業 舞鶴

京野菜「万願寺甘とう」の栽培環境の見える化

このコラムでは舞鶴で実施されている、新たな技術を取り入れた農業について報告・紹介します。

今回は、ＩＯＴ(Internet of Things)を活用した万願寺甘とうのスマート農業事業について報告します。この事業は２０１８年に舞鶴市と舞鶴高専、ＫＤＤＩ㈱で締結された「舞鶴市、独立行政法人国立高等専門学校機構舞鶴工業高等専門学校、ＫＤＤＩ株式会社との地域活性化を目的とした連携に関する協定」により始まりました。この取り組みは、３つの事項に関して取り組まれました。「産業の活性化に関する事項」、「防災に関する事項」、「スマートシティに関する事項」です。

収穫する岡安さん

「産業の活性化に関する事項」では、万願寺甘とうと舞鶴茶のスマート農業、定置網と丹後とり貝のスマート漁業について取り組まれています。「防災に関する事項」では、小規模河川の防災に関してＩＯＴの活用を進めました。「スマートシティに関する事項」では、舞鶴のクレインブリッジの橋脚監視に関して取り組まれました。万願寺甘とうに関しては、２０２０年から万願寺甘とう生産事業者と舞鶴市、ＫＤＤＩ㈱との共同事業として開始。目的はハウス内の温湿度や日照、地温などのデータを収集するとともに、データを共有・分析することにより、収穫量を上げるための栽培環境を見える化することです。

２０２０年から事業者としてこの取り組みに参加・協力している、おかやす農園の岡安賢治さんにこの取り組みに関してお話を聞きました。

この取り組みの成果について実感していることは、この取り組み前から独自に栽培に関するデータを収集して栽培に生かしていた内容を確認することができたことがあげられるとのこと。独自の栽培理論が確信に変わったとのことでした。収穫について、本年度は気候の影響もあるが、昨年度よりも多く収穫できているとのことです。

現在、岡安さんを含めて９箇所の農地でデータを収集し、共有することで、収穫量の底上げと品質の向上に役立てられています。組合員は専業から兼業、栽培規模も様々で、それぞれの栽培環境に合わせて活用されているとのことでした。

今後は害虫アラートや収穫量予測などの活用に向けてシステムに改良が加えられ、実装が進んでいます。より品質の良い万願寺甘とうが栽培され、全国の消費者に届くことを期待します。

（尾上委員）

ハウス内全体の様子

ハウス内に設置された計測機器

京都府立農業大学校

学生募集

京都府立農業大学校では、
府内で農業に従事したい意欲ある
学生を募集しています。

	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期）
願書受付期間	令和６年12月２日（月）～12月13日（金）	令和７年１月20日（月）～１月31日（金）
試　験　日	令和７年１月10日（金）午前９時20分～	令和７年２月14日（金）午前９時20分～
試験場所	京都府立農業大学校（綾部市位田町桧前30）	

詳しくは、農業大学校へ
直接お問い合わせ下さい。

電話
0773-48-0321

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊
金曜日発行

この国の農と食を伝えます。

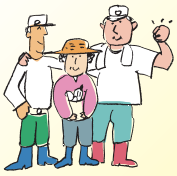
全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が発行する週間の農業総合専門誌です。

月700円、年8,400円（消費税込）
■購読のお申し込みは、農業委員会事務局へ
TEL 0773-66-1023
■発行所　全国農業会議所

農業者年金 で安心、豊かな老後を！

- 農業者なら広く加入OK
- 少子高齢時代に強い年金
- 税制上の優遇措置あり
- 保険料は自由に設定OK
- 農業の担い手には手厚い政策支援
- 終身年金で80歳まで保証

農業者年金に加入しましょう



農業者年金の内容やご相談については、
最寄りの農業委員会かJA
または農業者年金基金（TEL:03-3502-3199）に
お問い合わせください。

（農業者年金加入推進部長　霜尾委員）

編集後記

■連日35度を超える猛暑。気候変動の影響を肌身で感じる。

■国連事務総長のグテーレス氏は地球沸騰と警鐘を鳴らし、北極や南極の氷が溶けだしている。事実、このままでは海面上昇につながり、大変な事態になると心配されている。実際のところ、市内でも高潮の影響で海水が溢れ、通行不能となる地域もある。遠く離れた南の島々のみの問題ではなく、身近なところで捉える必要がある。

■農業を見ても、高温の影響で普段は丸く成長するはずのレタスが、１メートルを超えるとう立ちとなり、商品として販売ができない事態に陥ったそうです。

■今、各地で地域計画づくりが進みつつあります。意向確認を手始めに、守るべき農地の確定などを進め、農地の保全につながるように進めたいものです。

■今年は、米不足が急にいわれ、実際に販売する米が不足したようです。農家のやる気につながる価格が続くことを願うばかりです。

（野間委員）

●広報委員●

委員長　坂本　武
副委員長　野間　久一
委員　今安　七男也
委員　尾上　亮介
委員　佐藤　正之
委員　土井　清司